

「夢の舞台」で堂々の四位入賞！

- インターハイ(全国高校総体) 男子個人 -

☆☆☆ 畝傍高校 藤田 佑樹君☆☆☆

平成20年7月28日～31日
埼玉県 川越運動公園総合体育館(特設弓道場)

夕方の激しい雷雨こそあれ、猛暑が続く関西とは異なり日中は比較的さわやかな気候となった「小江戸」川越にて、全国より選りすぐられた高校生たちにより熱戦が繰り広げられた「インターハイ」に本県代表として参加させていただいた。北京オリンピックのそれに負けず劣らぬ総合開会式の感動もさめやらぬ中、予選を難無く通過した藤田は、翌日の準決勝・決勝射詰めにおいても、介添席で冷や汗をかく新米監督とは正反対に、夢の舞台で飄々と、しかし確実に的中を伸ばし、気がつけば四位入賞の快挙を成し遂げた。「1本1本を楽しみながら」「自然体で」臨めたという彼も、さすがに最後は握り皮が汗で滑ってしまった様子。一度は部活動を引退したが「インターハイの射詰めの舞台に立ってみたい」と3月に復帰、受験勉強との両立をはかりつつ精進を重ね、見事「夢」を現実のものとした。

来年度には本県を中心として「近畿まほろば総体」が開催される。今回は惜しくも上位入賞を逃したものの、実力を着実に蓄えつつある選手も多い。奈良県一丸となり、さらなる選手強化と運営準備に励むべく、会員各位にも引き続き高校弓道への温かいご支援を賜りますことをお願いいたします。
(監督 嶋田和弘)

惜しい！！ ◇高田商業高校◇

本年度、高田商業高校は女子団体にインターハイに参加することが出来ました。大会開催中の埼玉県は奈良県より涼しく、非常に素晴らしい環境のなかで公開練習から挑めたと思います。

結果としては予選を20射12中で通過し、決勝トーナメント1回戦で秋田県の新屋高校に13-10と勝ちましたが、入賞を目指して挑んだ2回戦で東京都の吉祥女子高校に12-12となり同中の一本競射で0-2で敗れてしまいました。入賞圏内を目前としながら、入賞できなかったことで、生徒も非常に悔しい思いが一杯だったと思いますが、私はこのチームに入賞以上の価値があったと思います。というのも、私は赴任して3年目ですが、このチームほど結束力が高いチームはいませんでした。主将を中心として、自主的に行動し、全員がチームのために行動できるチームでしたので、この経験は弓道以外でも、これからの社会生活の中で活かされていくと思います。➤

最後に、応援して下さいった多くの皆様ありがとうございました。結果は非常に残念でしたが、皆様の応援があったからこそ、ここまでこれたのだと思います。これからもよろしくお願いします。

大和高田市立高田商業高等学校
教諭 増田 健一

国体近畿ブロック大会出場

少年チーム健闘及ばず

本年度国体少年チームは、昨年と同じく、男子は高塚、女子は川本の両監督のもと、近畿ブロック予選に向け、候補選手を例年通り男女各5名とし、男子は全員3年生で、うち3名が去年に引き続き選ばれました。女子は2年生4名、3年生1名で、全員が初めての候補選手というフレッシュな顔ぶれとなりました。

今年も、例年通り6月に山添で合宿を行い、7月のテスト明けから他府県との合同練習会などの練習を連日実施。8月に入り、インターハイ出場メンバーも加わり、近畿ブロックまで1日も休むことなく、炎天下の中、橿原公苑弓道場やテニスコート、光陽中学などで練習を続け、大会に臨みました。

大会当日、遠的男子1回目は7中と、得意にしていたはずの遠的で苦しいスタートとなりました。しかし、2回目は12射皆中で何とか遠的を2位で終了。女子は、遠的1、2回目とも振るわず、5位と出遅れました。

午後の近的1回目は、男子が9中、女子は意地を見せ12射皆中し、本国体出場に向け、2回目に望みをつなげました。しかし、その2回目、男子は2位争いをしてきた滋賀が直前に10中を出し、奈良は9中以上を出せば総合2位となる状況の中で6中と振るわず、また、女子も近的は1位となったものの一歩及ばず、ともに総合3位で競技を終えました。豊富な練習量や早めに現地入りしての調整など、できる限りのことをしてきたつもりでしたが、ここ1番で力が出せなかったことは、来年度に向けての大きな課題となりました。特に男子は、昨年の秋田国体で遠的2位となったときの選手が2名残っていたにもかかわらず、本国体出場を逃したことは大変残念です。

しかし、選手たちは、控えも含め、本当によく頑張ってくれました。チームワークもよく、大きなプレッシャーの中、互いに支えあって、良い雰囲気で大大会に臨むことができました。この経験が今後の彼らの人生に生かされることを願ってやみません。最後に、監督、選手を支えて下さった連盟の方々、遠方にもかかわらず応援にかけつけて下さった方々に厚く御礼申し上げます。来年は奈良インターハイも開催されます。なお一層のご支援をよろしくお願いいたします。(強化部長 澤一彦)

第3回全国学校弓道指導者研究協議会、

第39回全日本教職員弓道選手権大会に参加して

平成20年8月7日(木)に、宮崎県都城市早水公園体育文化センターにおいて、第3回全国学校弓道指導者研究協議会が行われました。全日本教職員弓道連盟主催、文部科学省・全国高等学校体育連盟弓道専門部後援で、2年前から全日本教職員弓道選手権大会の前日に行われるようになり、教職員がクラブ活動等での、指導内容や指導方法について互いに研修・研究を深める行事として定着しつつあり、今年は全国から90名弱の参加がありました。



研究協議会では、まず、北海道北見商業高等学校の南敏和先生が、「ホームルームと部活動の生徒組織・自主運営について」というテーマで弓道指導の実践例を発表されました。続いて「弓師による竹弓の製作過程の実演と取扱管理方法」というテーマで、都城弓製造業協同組合の弓師の方々が、近的弓道場に会場を移し、竹弓の製作過程の実演をされました。実演されたのは、理事長の森六一氏(銘 大菴聖心)、永野正行氏(銘 重次)、楠見純寛氏(銘 蔵吉)でした。宮崎県都城市は、古くから弓の生産地で、江戸時代初期にはその製法が確立されていたと言われており、現在でも国内の竹弓の90%以上を生産しているそうです。弓師が竹を小割りにして合わせ、木で打ち込み、弓の形にしていくという、めったに見ることのできない過程を目にすることができました。質疑応答では、竹弓の取扱管理方法について、弓師から直接教えていただくことができ、貴重な機会となりました。



事例発表会のあと、全国高体連弓道専門部長の影山一先生の指導助言に続き、前全日本教職員弓道連盟会長の白石直之先生の講評、質疑応答がありました。4時間が短く感じられるくらい内容の充実したもので、弓道の指導内容や方法について考える有意義な研究協議会となりました。

翌日の8月8日(金)には、体育文化センターにおいて、第39回全日本教職員弓道選手権大会が始まり、奈良県からの3名を含め全国から323名の参加がありました。例年と比べて観客席も広く、練習のできる近的弓道場も隣接しており、恵まれた環境でした。8日(金)の午前中に公開練習、午後から開会式、そして競技開始となりました。男子個人戦に出場しましたが、決勝に残ることはできませんでした。8月9日(土)には、女子・男子団体決勝トーナメント、女子・男子個人決勝が行われ、女子団体は沖縄県、男子団体は大分県が優勝しました。

本大会も来年には第40回を迎えることになり、全日本教職員弓道連盟の理事会において、40周年記念誌を全国の47都道府県で分担して、製作していくことに決まりました。これまでの経緯を見ると、大会の草創期は三重県と奈良県の輪番制で行われており、本県では第4回(昭和48年度)、第6回(昭和50年度)、第8回(昭和52年度)大会が開催されたようです。

大会期間中、都城地域の天候は曇りがちで、時折激しいにわか雨もあり、全国的な猛暑のなかでは比較的涼しく感じる日々でしたが、この3日間は、全国の先生方の弓道指導の実践例、問題点についてアドバイスを聞いたり、竹弓の製作過程の実演を見たりし、お互いの交流を深めるなど有意義な期間になりました。大会で得た経験を生かしながら、これからも弓道修練に励みたいと思います。

(教職員支部 松本 高佳)

20年度県連盟 伝達講習会報告

(指導部)

近畿地区指導者講習会参加者を講師とする連盟主催の伝達講習会は8月3日をもって終了しました。猛暑の中多数の方が参加し、熱心に研修をしていただきました。講習会は下記の3回実施しました。

第1回(6月22日) 参加対象:4・5段および各支部指導者・称号者 参加者37名(称号15名) 内容:基本動作の確認および射礼研修。

第2回(7月27日) 参加対象:教職員、中学・高校のリーダーキャプテン 参加者19名(顧問4名)8校(高校のみ) 内容:基本体と射技の研修。顧問の先生には介添え研修もしていただきました。

第3回(8月3日) 参加対象:第1回に参加できなかった各支部指導者・称号者 参加者19名(称号4名)内容:基本動作の確認および射礼研修。

今回の講習会の内容を各支部および各学校に持ち帰り伝達していただきますようお願いいたします。

講師:明瀬憲正、吉岡三保子、平木一史、森昌彦、岡本薫子

参加者合計 75名

全日・国体・ねんりんピック壮行射会

日時 9月7日(日) 会場 橿原公苑弓道場 参加者: 48名
好天に恵まれて壮行会が行われました。開会式では竹村副会長が「奈良県からも多くの全日本、国体の優勝・入賞者がいます。決して皆さんと違う特別な人達ではありません。皆さんが“自分も出来る”という気持ちで稽古すれば奈良県がレベルアップします。頑張ってください」と挨拶されました。矢渡しは、射手: 竹村副会長、第一・第二介添: 山本・小林両錬士により行われ、見事な束中での射会開始となりました。

まず、県代表選手による演武、続いてトーナメント予選が行われました。昼食をはさんだ壮行会は、往年の名選手たる先生方が思い出話をされたり、選手の決意表明や会員からの壮行の言葉に笑い声も上がる和やかなものでした。

午後のトーナメント戦は、国体選手の男女対決、ねんりんチームの活躍など見所も満載でしたが、国体成年男子が十、十、九中と安定した的中で優勝しました。

当日は射会・競技とも参加者の協力を得てスムーズに進行でき、また閉会後には全員での貼りを行うなど会員一人ひとりが連盟の運営を支えていると実感されました。

全日本弓道選手権は9月19日～23日、全日本遠的選手権は10月24日～26日(いずれも東京・中央道場)、国体は10月4日～7日(大分県佐伯市)、ねんりんピックは10月26日～27日(鹿児島県薩摩川内市)に行われます。

<壮行対象者>(敬称略)

全日本弓道選手権出場: 新司正人、明瀬綾子

全日本弓道遠的選手権出場:

阪中計夫、藤岡順、山口愉佳子、井上ゆみ子

ねんりんピック出場: (監督) 中埜弘樹

井阪清、石田弘子、森川昭、喜殿幸子、赤松順次、

大分国体出場: (監督) 藤岡順

蔵地隆文、矢野有吾、山口亮二、

(競技部 井上ゆみ子)

イワガキモヨシ

弓道同好会できました

…… 西和清陵高校

去る7月18日 奈良県立西和清陵高校(福井修校長)に弓道同好会が誕生しました。現在メンバーは男子3, 女子7, 計10名。顧問とメンバーが協力して「入ってよかったと思えるような集まり」にすることを目標に活動しています。近い将来、他校の弓道部と肩を並べられるようになり、そして弓道部に昇格できることを夢見てメンバーとともに頑張っていきたいと思っています。

(同好会顧問 平木一史)

歳時記

「10月」神無月(かみなづき)

現在、都会では土地などの問題から住まいが簡素化され、合理化されてきていますので、臨機応変に使用できるゆとりある住居などは、地方にしか見られなくなりました。それと同時に、仏壇とか神棚なども忘れられるようになりました。けれども結婚式は神前で行なう人が90%、また初詣には若い人が多いことを



見ると、まだ何か心に潜在するものがあると思われま。十月は神無月ですが、出雲地方では神有月です。

神棚のしめ縄は天の岩戸の故事から発し、清浄を表示するものです。新しいなわを左なえになって、紙垂(しで)という紙をたらししたものをはさみます。その形から大根じめ、ごぼうじめなどといわれていますが、稲の根本を向かって右にします。紙垂は二たれ、三たれ、四たれ、七たれなどありますが、一般の神棚としての定めはありません。



神饌用具として、瓶子(へいし){酒を入れる器}は一对が正式です。杯をはじめすべて土器が正式の器です。神饌を盛る器をかわらけ(土器)、あるいはひらかといいますが、三方にのせて供えます。三方は胴の三方にくり型をあけているところからその名があります。主として神饌をのせるお膳に用いられますが、胴の上に置く折敷のしめが神前に向かないよう、手前にすえます。くり型をあけていない方はしめがありません。胴は反対側にとじめがあります。

折敷は三方の胴を取った形のもので、食膳用にもちいます。高つきは腰高ともいい、食物を置く腰の高い台です。雛祭りのときには菱餅などをのせます。その他燭台、花瓶などを置きます。

玉串はたむけ串のことで、神域の漂木でした。榊を用いて紙垂(しで)をつけます。お札は毎年いただきます。古いお札は神社の所定の場所にお返しするか、家で焼却するようにします。そして常に新しいお札をお祭りしたいものです。

「小笠原流マナー」著者小笠原清信 グラフ社発行より
中埜大学藤原孝澄(中埜弘樹)